



IIJ-Tech、「IBPS データマネジメントサービス」を大幅に拡張

-- 国内初、総容量 40 テラバイトの大規模ストレージサービスを従来比 1/5^(*)の価格で提供--

株式会社アイアイジェイテクノロジー(IIJ-Tech、本社:東京都千代田区、代表取締役:鈴木 幸一)は、ネットワーク型ストレージサービス「IBPS データマネジメントサービス」を大幅に拡張し、2003年10月27日より、国内初となる総容量 40 テラバイトの企業向け大規模ストレージサービスの提供を開始します。

(*) 拡張前の「IBPS データマネジメントサービス」との比較

企業に蓄積された情報資産を集中管理し、管理コストも含めた TCO 削減を行うネットワーク型ストレージシステムのニーズは高まる一方です。しかし、現状のストレージシステムをご利用のお客様は、「多大なコスト」、「膨大なデータのバックアップ時間」、「データの重要性に合わせたディスクの選択の難しさ」など多くの問題に直面しています。IIJ-Tech では、これらの課題を解決するために「IBPS データマネジメントサービス」の拡張を大幅に行いました。(拡張システムの概要につきましては、別紙をご覧ください。)

「IBPS データマネジメントサービス」拡張によるお客様のメリット

1. 利用形態に応じたストレージの選択
お客様のサービスレベル、利用形態に応じたストレージの選択が可能です。例えば、より高速なストレージアクセスと高信頼性バックアップを必要とする場合にはプレミアムクラスのストレージを、スタンダードレベルのアクセス性能とデータ管理で十分な場合には、ミドルクラスのストレージをご利用いただけます。
2. コストの大幅削減を実現
低価格で安全性の高いミドルクラスストレージをご利用いただくことにより、お客様のストレージサービスに係るコストを大幅に削減いたします。例えば、従来の IBPS データマネジメントサービスに比べ、1/5 の価格にてご利用いただけます。
3. 高速バックアップ
ディスクからディスクへの高速バックアップを低価格でご利用いただけます。データの検索も簡単に行うことができ、これまでのような手間と時間の掛かるテープによるバックアップ業務からお客様を解放いたします。

今後、IIJ-Tech では、「IBPS データマネジメントサービス」の拡充として、「ストレージ容量単価の低価格化」や「提供範囲の拡大」、「ウイルスプロテクションの対応」から「データ暗号化、マルチプロトコル対応」など高付加価値なストレージサービスに順次対応してまいります。

< IBPS について >

IBPS (インテグレーション&ビジネスプラットフォームサービス)は、お客様の要件に応じて、システム構築・運用を行う際に必要となる“部品”(あらゆるリソース)を予めサービスとして用意するリソースオンデマンド型のサービスです。これにより、お客様は、初期導入コストを抑えた大規模なシステムの構築を短期間で実現することができます。さらに、お客様システムを IIJ-Tech にてお預かりし、運用・監視を行うことにより、システムに係るお客様の TCO を大幅に軽減いたします。IIJ-Tech では、これまで、オンライン証券、大規模 EC・製品ポータルサイト、検索エンジンなど多くの大規模インターネットビジネスのシステムを構築し、システムの運用・管理までトータルにサポートしております。

報道関係問合せ先

IIJ グループ 広報室 手島、池田

TEL: 03-5259-6310 FAX: 03-5259-6311

E-mail: press@ij.ad.jp URL: <http://www.ij.ad.jp/>

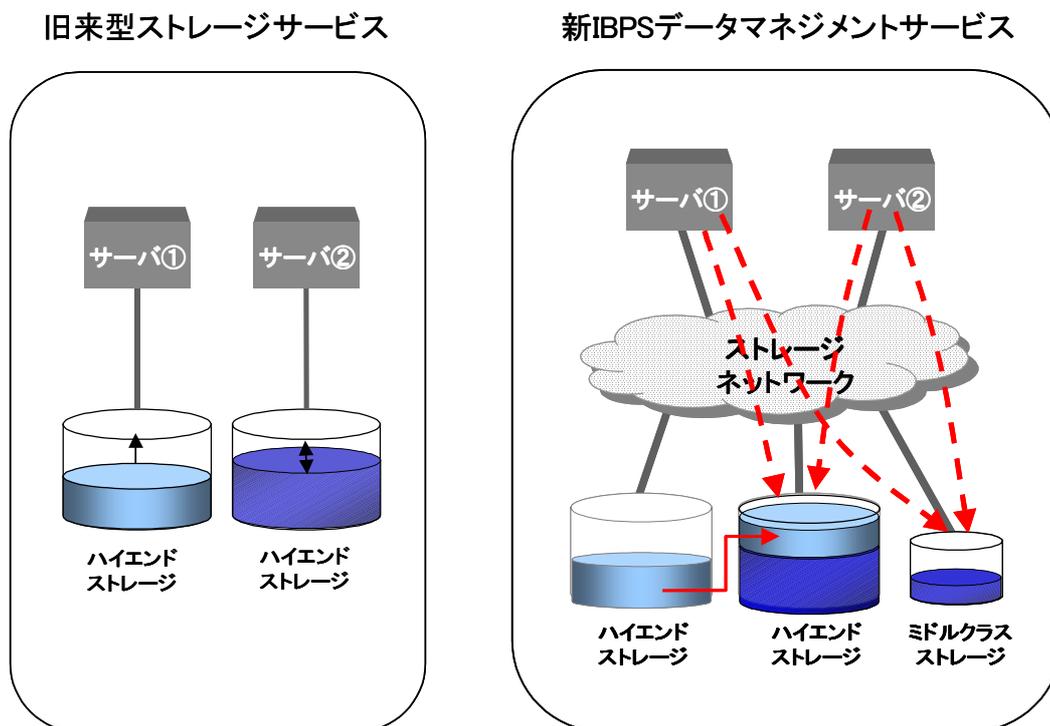
営業関係問合せ先

株式会社アイアイジェイテクノロジー 営業企画室

TEL: 03-5205-6703 E-mail: info@ij-tech.co.jp

< 「IBPS データマネジメントサービス」 拡張システムの概要 >

1. 旧来型ストレージサービスと新「IBPS データマネジメントサービス」の比較



旧来型ストレージサービスの課題

- ストレージ容量を有効活用できない
- 単一のグレードサービス
- 容量増大に伴うバックアップの長時間化
- 高コスト

2. 「IBPS データマネジメントサービス」 拡張システムの主な特徴

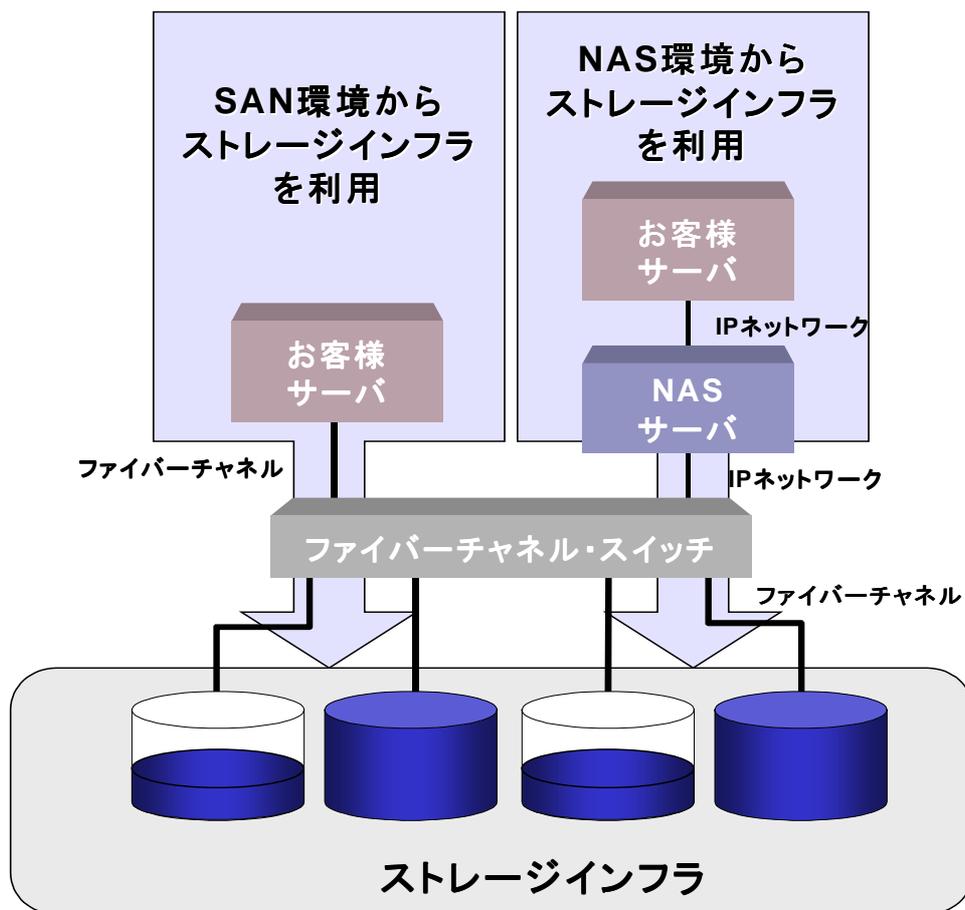
- 拡張性と柔軟性を重視したシステム構成
ファイバーチャネル⁽¹⁾・スイッチをコア-エッジ（多段）構成にすることにより、拡張性と柔軟性の高いシステム構成となっています。
- SAN⁽²⁾/NAS⁽³⁾環境を統合（3 図参照）
これまで個別に提供していた SAN 環境と NAS 環境を統合することにより、SAN、NAS 両方から同一のディスクへの接続が可能となりました。これにより、ストレージインフラ設備の有効利用を実現しました。
- ミドルクラスストレージの対応
最新鋭のストレージ仮想化技術により、複数のディスク装置を仮想的に 1 つのディスクにまとめた構成にいたしました。これにより、ベンダやハードウェアの枠にとらわれることなく、低価格で安全性の高いミドルクラスストレージの提供が可能となりました。
- 高速バックアップに対応
ディスクからディスクへの高速バックアップに対応しています。

⁽¹⁾ ファイバーチャネル：コンピュータと周辺機器を結ぶデータ転送方式の一つ。主に、高い性能が必要なサーバで、コンピュータ本体と外部記憶装置を接続するのに利用されている。

⁽²⁾ SAN(Storage Area Network)：複数のストレージ装置で構成するネットワークを専用のネットワークで接続し、仮想的に 1 つの大きなストレージ装置として、様々な OS のプラットフォームから自由にアクセスできるようにするもの。コンピュータ間を繋ぐ LAN とは異なり、ハードディスクなどの外部記憶装置同士をファイバーチャネルで高速に接続し構成する。サーバごとにディスク装置を接続する構成に比べ、ストレージ利用効率の改善や、運用管理の一元化が可能。

⁽³⁾ NAS(Network Attached Storage)：コンピュータ間を接続する LAN に直接接続して使用するストレージ装置。ネットワークに接続された他のコンピュータからは、通常のファイルサーバと同様、共有ディスクとして使用することができる。

3. SAN 環境と NAS 環境の統合イメージ



4. 構成について

今回の拡張システムは、IIJ-Tech による企画・設計の下、日本ヒューレット・パッカード株式会社（以下、日本 HP）、プロケード コミュニケーションズ システムズ株式会社（以下、プロケード）、株式会社電通国際情報サービス（以下、ISID）、兼松エレクトロニクス株式会社（以下、KEL）の支援を受けて、構築いたしました。

具体的には、SAN インフラ環境全体のデザインと構築では、日本 HP とプロケードの支援を受け、コア-エッジ（多段）構成のファイバーチャネル・スイッチに HP Storage-Works Core Switch 2/64（Brocade SilkWorm 12000 相当）を 4 台採用した他、プレミアムクラスのストレージを拡充し、HP StorageWorks XP128 を採用しました。また、ミドルクラスストレージの構築では、ISID と KEL の支援を受け、最新鋭の仮想化技術プロダクトの米国データコア・ソフトウェア社製 SAN symphony™（サンシンフォニー）を採用しております。

以上